

2. 実施ブロックの報告

北海道ブロック

1. プログラム詳細

【日程】

< 1日目 >

13:00~13:30	(30)	受付
13:30~13:45	(15)	開会 ・主催者挨拶：内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付 交通安全啓発担当 参事官補佐 大橋 健晴 ・来賓挨拶：北海道環境生活部くらし安全局道民生活課 交通安全担当課長 屋代 芳彦 ・講師、コーディネーター等紹介
13:45~14:45	(60)	講演 「説得の心理学と交通安全学習」 ~安全・安心のコミュニティ再生~ 自由学園最高学部 講師 溝端 光雄
14:45~14:55	(10)	休憩
14:55~15:55	(60)	活動事例発表 「高齢者に対する交通安全教室について」 札幌市中央区交通安全運動推進委員会 交通教育指導員 近藤 寿恵 「幼稚園・保育所での交通安全教室」 小樽市生活環境部生活安全課交通安全対策係 交通安全指導員 高田 敏江 「交通安全に向けた啓発活動について」 日本自動車連盟(JAF)北海道本部 事業部長 中川 順一
15:55~16:10	(15)	事例発表に関する質疑応答・意見交換
16:10~16:25	(15)	休憩
16:25~16:55	(30)	グループ別交流（自己紹介及び役割分担検討）
16:55~17:00	(5)	事務連絡

< 2日目 >

8 : 30 ~ 9 : 00	(30)	受付
9 : 00 ~ 10 : 00	(60)	講演 「交通安全とボランティア活動」 ～ 地域・家庭での交通安全を確保するために～ 安全教育研究所 所長 星 忠通
10 : 00 ~ 10 : 10	(10)	休憩
10 : 10 ~ 11 : 10	(60)	グループ討議 (4 テーマ) 1 . 子どもの交通安全 2 . 高齢者の交通安全 3 . 自転車の交通安全 4 . 飲酒運転の根絶
11 : 10 ~ 11 : 40	(30)	グループ討議結果発表・全体討議及び意見交換
11 : 40 ~ 11 : 50	(10)	講評 (コーディネーター 星 忠通先生)
11 : 50 ~ 12 : 00	(10)	主催者からの連絡事項 : 内閣府
12 : 00		閉会

2. 講義等の記録

【1日目】

講演

「説得の心理学と交通安全学習 ～安全・安心のコミュニティ再生～」

自由学園最高学部 講師 溝端 光雄

溝端でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、お手元の資料、13ページをごらんいただきながらお聞きいただきたいと思いますが、スライドとほとんど一緒ですので、下を向いていると、だんだん睡魔が襲ってきますので、前を見ていただいたほうがよろしいかと思ひます。

私の略歴です。愛媛大学を出まして、学生を17年教えてきました。その後、東京都の老人総合研究所に移りまして、高齢者の研究をさせていただきました。老研に14年勤めました。その後、現在の自由学園で働かせていただいております。

この白い髭と白い髪が特徴でして、去年埼玉県でお話をしました。そうしたら、宮崎駿に似ていると言われたのですが 似ています？（笑声）埼玉の宮崎駿と申しますので、ひとつ覚えていただければありがたいと思ひます。どうも台風、地震、北海道は何か当たり年でしたね。皆さん方も大変ではなかったかと思ひます。

説得の心理学

人に行動を変えてもらうには説得しなければいけませんよね。何かお得なことがありますよということを説いて初めて説得になるわけですが、説得にもいろいろあるというお話を最初に申し上げます。説得の心理学を言っている人は何人かいらっしゃるのですが、その中で、マズローというアメリカの心理学者ですけれども、この人の作ったこの表がいいかなと思ひて持ってまいりました。何となくわかりませんか？ 要するに、欲望、欲求があつて、何々したい。腹が減ったからご飯を食べるわけです。欲望によって行動があるということで、欲望があるように仕向けなければいけないわけです。皆さん方のお仕事はそうだと思います。安全への動機づけをやらないと話にならないわけです。

動機（欲求）の一番下には、生理的動機で、お腹の下のほうが一杯になってきたな、トイレに行きたいなといってトイレに行きますよね。その一つ上に、安全・安心という話が出てきます。それは危険なことよりは安心・安全のほうがいいですよ。それから、旦那様を愛しています？ 子どもさんに対する愛情とか、そういうので真ん中ですね。もう一つ上に行きますと「尊敬への動機」と書きましたけれども、これも大切なことですね。他者を褒めてあげる、エレベーターから降りる時に、俺が先に行くのではない、どうぞというやつね。これは結構レベルとしては高い、なかなかできない。

私、マンションに住んでいます。エレベーターの中でお隣さんとか上の階の方に会います。私のほうから、おはようございますと言うと、黙って行く方と即返してくれる方。ところが、これを1回、2回、3回、4回とやっている、今まで黙っていた人がおはようございますと言うようになる。相手を敬ってあげることが自分に返ってくるわけですね。

一番上は、自己実現への動機。一番偉いことですね。おいしいお酒、老酒ってありますね。あれはおいしいお酒だから老酒なのですね。老死、日本語では老いた死と書くとこれは本当の先生なのですね。ここにいらっしゃる方は皆さん老死を目指してぜひ頑張っていたきた

いということです。

このように、動機には5階層ありますが、上に行くほどレベルが高い。レベルが高いという言葉は適切でないかもしれないけれども、効果が大きいと考えてください。下のお腹が減ったから食事を摂りましょうというのは、どちらかといえば誰でもできることです。上に行くほど相手に対する説得効果が大きいものと考えていただくと、当たらずといえども遠からずと思います。下にちょっと書かせていただきましたが、「動機づけとは、上記の動機(欲求)をもとに、人の行動を一定の方向(交通安全)に動機づける」ということです。そのためのノウハウを学んでいただいて、実際に地域でご活用いただけたらうれしいなと思います。

次に、「自尊心」についてですが、要するに、自信とか自尊心を測ろうとした心理学者います。その自尊心を測る時に使われた調査票というか解答用紙がありますが、ローゼンバーグの自尊感情という尺度です。

その内容は、1番目、「私は、自分自身にだいたい満足している」。当てはまらない、やや当てはまらない、どちらとも言えない、やや当てはまる、当てはまる、とありまして、これをそれぞれ個人別に評価していただきます。私は自分自身に大体満足している、「当てはまる」場合は5点入ります。一番自信があるというか強い感情。「当てはまらない」というのは低い感情ですので1点です。

2番目は、「時々、自分はまったくダメだと思うことがある」。「当てはまらない」から「当てはまる」のうちから一つ選びます。ここの回答蘭の点数は、5、4、3、2、1と反対になっています。これが10問まであります。全部自信があったら50点。全部1だったら10点です。そうすると、パターンによって、10で割ると平均得点が出ます。つまり、50点満点だったら10で割りますから、その方の得点は5点になります。それから、全部1をつけられたら、その方の得点は2点となります。そうやって何人の人に対してもとるわけです。とって、プロットしたらどうなるか。項目ごとに中間をとります。それをグラフに落とします。左端がゼロ歳から12歳、右端が80~89歳。ピンクは女性、ブルーは男性。これを見ていただくと、自尊感情は、子ども世代と60代が高く、女性より男性の方が高いということが分かります。

子ども世代が高いのは何でだと思います？ 無知だから？ 何も知らんから？ 体験が少ないから、自転車で転げて、膝すりむいて、痛いと思って初めて自転車はこけるのだということを理解できるのです。高学年ぐらいでだんだん下がってきます。一番よろしくないのが小学校低学年や幼稚園児です。生まれて間もないと、恐ろしいことを知らないのだから高いわけです。テストの点数が悪かったらお母さんに怒られますよね。テストって高い点をとらないといけないのだなと思って初めて勉強しますね。このように段々下がってきます。一番下がるのが大学を出るぐらい。それから社会に出ます。社会に出て少しずつ上がっていきます。先輩から指導を受けて、少しずつ自分の仕事に対する自信というものがあらわれてきます。女性も同じです。その後高くなって、どこで止まるか。90歳ぐらいになってくると落ちているでしょう。一番高いのは定年前後の60歳から、いわゆるヤング・オールドと言われるレベル。もう酸いも甘いも分かって、部下もできて、会社を辞められて、これから老後かなというところで一番高くなるわけです。

皆さん、どうですか。家庭訪問されて、ばりばり元気でやられておる高齢者のお家に行つて、最初にどうしますか。どう言われますか。

会場 こちら側が話を聞く時は、すごい低姿勢に。その方が高齢というか60歳ぐらいの人なら……

溝端 100点です。女性の方なら服装などを褒めてあげると良いでしょう。「あら？ 奥さん、ちょっと体重が落ちましたね」と言うと、もの凄く喜ばれました。たったそれだけ、ちょっとスマートになられましたねと言ったらもの凄く喜ばれます。褒めてやるということです。それは子どもでも大人でも変わらないですね。とりわけ高齢者のほうがやばいわけです。

何でやばいのですか。自尊感情がとても高いから。あり余るほどのプライドをお持ちなのです。そういう方に対して、頭から、「おじいちゃん、信号気をつけて渡らないとだめじゃない」とかやってしまったら、一巻の終わりです。

つまり、そのことを頭に置いてください。皆さんが笑うのは後です。相手をうまく説得できて、自動車の運転をやめられるとか、横断歩道を安全に渡ることができるようになったとか、その時が皆さんの勝利です。

青年期を過ぎて年をとって高くなるのは、血糖値と血圧とプライド。これ覚えておいてください。血糖値と血圧は高くなる人もいますけれども、プライドはどんどん上がっていきます。でも、最後は下がります。「もう私は・・・」という時はどうしますか。「そうなの？大変ね、どこが」と声をかけて、何が大変かをしゃべらせてあげてください。一生懸命考えてお答えになろうとしますよね。それが若返りのもとです。もしできたら、引き出すこと。福祉の世界でよく使いますが「傾聴」と言います。相手にしゃべらせてください。

子どもの自尊心のところに、「身体機能の未熟さに伴う誤った判断」ということを入れさせてもらいました。集中力、理解力、判断力が未発達ですから、全部大人が理解する。子どもの視力が大人の目になるのは何歳からでしょう。視力、7・8歳ぐらい。ですから信号に従うことをしっかり教えることが理屈に合っているわけです。信号は目の前にありますから見えます。しかし、車の速度を見て渡りなさいということは、絶対できない。第一、割り算という概念は1年生、2年生ぐらいでは分からないです。分かったらその子は天才です。

未発達な部分を教え補う。どちらかというとなる。子どもですので、親御さんなり、地域で交通安全のイベントをやる時に躡るということですね。だって、命を守るのですから、強く指導しないとイケませんね。高齢者の場合は別ですね。注意を受けちゃうと逆に怒られるでしょう。子どもは違う。入ってくる、もともとゼロだから、新しいことを少し強く言う、むしろ強く言ったほうが効果は上がるはず。そこら辺のことをご理解いただければと思います。この間あった事故ですが、ランニングバイクでお兄さんと一緒に外に出て、坂道で、これはブレーキがきかないから、車に突っ込んで亡くなりました。叱るということも大事なのですね。

次、おじいさんとおばあさんに対してどうやるかという話です。高齢者の自尊心。これは子どもよりもっと高い。ここの人たちをどう説得するか。さっき運転の断念というお話もありました。そういうことですね。視力の衰えがあって、夜間視力が落ちてくる。白内障で水晶体が濁りますと、昼間は運転できて夜間の運転は、もの凄く運転しづらいのです。おまけに、水晶体は濁ってくると中に白い粒子みたいなものが出てきて乱反射しますので、余計見えません。それをお嫁さんから孫を迎えに行くと言われますと、日頃お世話になっていると、つい行く気になってしまいますから、言う嫁さんのほうが問題だけれども、そこら辺の問題もありますね。高齢者のところにちょっと書きましたけれども、「高齢者の自尊心の高低と反発心」ということをやはり頭に入れておかなければいけない。

何よりもこれですね。「満たされないプライド」です。おれは頑張ってきたけれども、周りのやつが認めてくれへんと思ってしまうわけです。だから、最初は褒める言葉から入ってほしいのです。「いつもお元気でいいですね」。最初そのことを言う。「いつもありがとうございます」、「いつも頑張ってくれてありがとう。ところで、この間逆走事故があつてね」と、こういう話で入っていただく。最初の導入が肝心ですね。

この間、総務省統計局の調査がありまして、近くの家を訪問しなければいけなかった、国の記録統計というか、調査に回答する義務が国民にもあるわけです。それで訪ねたわけですね。「おれは断固拒否する。国の調査だろうが何だろうが、拒否する」「いや、拒否するということはできませんよ。皆さんのためにいろいろな施策をするために調査するデータなのだから、拒否なんということはないですよ」。困ったものですね。「いや、いいですよ、拒否な

さって。ただし、調査票は持ち帰りますよ、何の誰それさんが調査票を受け取っていただけませんでしたという報告を私はする義務があるから、しますよ」と申し上げたら、「いい」と言うのです。「では、持ち帰りますね」というと「何か罰則があるのか」とおっしゃるのですね。「罰則は、すぐにはない、あなたがいつも国の調査を拒否なさっているとすると、統計法という法律がありまして、余りひどいことをやっている、裁判所から召喚状というケースもあるのです」と。そしたら何と、役所のほうへその人が調査票を一番に戻している。だから、たまにうまく言う話術も覚えていただくといろいろ効果がありますということです。それから、本当に暴力とか暴言が出てきて、余りひどいようなら警察に相談してください。色々ご苦労が多いと思いますが、とりわけ高齢者の方の場合はそういうことがあると思いますので、お気をつけになっていただきたいということです。

もう1つは、暴言を吐いたりするのは、脳梗塞とか難聴、目が見えないとか、身体の機能低下があります。耳が聞こえなくて、何を言われているか分からなかったら、最後は腹が立つでしょう。場合によっては筆談でもいいですね。

子どもとちょっと違います。褒めながらは一緒です。思いやりね。これを忘れないでいただきたいと思います。

道路交通事故の現況

1949年は3,790人でしたが、急速に自動車が普及して、死亡者がどんどん上がってきて、1970年には、日清戦争での死者数を超えてしまい第一次交通戦争ということが言われました。その結果、児童の集団登下校が始まったのですが、その頃に、全国的には交通安全母の会が組織され活動が始まりました。その結果として、事故がずっと減ってきます。当時はまだ高齢化社会になっていませんから子どもの事故が多かったのです。そして、第二次交通戦争を迎えてしまいました。車両の性能も高速で走れるようになり、道路整備も進んで、今、少しずつ下がってきて、現在に至るわけです。

これが一昨年のデータです。交通事故死者数が4,000人を割りました。去年は3,649人でした。しかし人口10万人当たりの交通事故死者数を見ますと、圧倒的に高齢者です。北海道も例外ではないと思います。この傾向がまだ続くでしょう。

多くの人にとって加齢減退が顕著で、交通安全にも健康維持にも不可欠な体の部位はどこだと思いますか。

会場 目、視力。

溝端 運転に関してはそうですね。

会場 筋力。

溝端 そのとおりですね。筋力です。

90歳ぐらいの方。何が一番落ちています？ 3種類に分けています。体幹と上肢、下肢。下肢が一番。よく老化は足からということの証明です。

下肢の老化はどの筋肉からいくかという話ですけれども、下肢といってもいろいろある。MRIの画像を見てもらいます。これは大腿骨です。普通の40歳のトライアスロンの選手。ほとんど筋肉ですね。74歳、運動嫌いな方。白いのは全部脂肪。真ん中に残っているのが筋肉。この減少たるやすごいでしょ。70歳のトライアスリート。全然脂肪がついていない。頑張っただけでも運動すれば、筋肉が保てる、脂肪も減るといっていいでしょう。

これを見て、もの凄く運動をする方がいるのですね。それはいいけれども、やり過ぎるとケガのもとになります。もともと筋肉量が少ないのだから、調子に乗ってはいけません。様子を見ながら、痛みが出たらやめる。24時間お休みになると3日目には痛みが全部とれます。前の日に死ぬほどトレーニングしたら、1日たっても痛みがとれません。痛みが抜けないうちは運動禁止。そういう指導をしてあげてください。

もの凄い低下量ですから、筋肉が落ちてくると何が起きるかということです。色々な病気が高齢者にはありますけれども、最も多いのは高血圧と糖尿病ですね。おいしいものいっぱい食べますよね。よせばいいのに、食べちゃうでしょう。おいしいから。

お腹より血管のほうに溜まるでしょう。血管のほうに溜まっちゃうと、その前に血圧が自動的に高くなります。そのコレステロールを燃やすのが運動です。運動するととれます。1日ではダメですよ。1週間に3回あるいは1週間に2回、1時間ないし2時間の運動を続けると、3ヵ月、6ヵ月経つととれます。どっちがいいか。薬を飲んで無理やり下げるとも1つの手。副作用がある、肝臓がやられる。運動は肝臓が強化され、脂肪肝もとれます。どっちがいいか考えたら、議論の余地はないな。そういうことですね。

糖尿病に行きましょう。これも同じです。糖尿病も年齢別のパターンは一緒。インシュリンが年齢とともに分泌量が減ります。糖尿病でなくて高血圧の人は弱い運動を1時間、2時間やればいい。逆に両方持っている人は、最初にどっちやる？ 最初に筋トレをやる。筋トレをやると血中のブドウ糖が全部消費されますから、1時間やったらきれいになります。あと残り1時間で有酸素運動をやる。ウォーキング、自転車、エアロバイク、何でもいいです。

こんなことを言っていた元プロレスラーがいます。「年寄りには鍛えねばならない。ねばならない、鍛えましょうではない、鍛えないと死ぬよと言っているんですよ。

東京都老人総合研究所をやめる直前の私ですが、夜おいしいローストビーフは食べるは、ろくなものではないですよ。完全糖尿病ですね。これはやばい、人に言っとる場合じゃない、自分がやらねばいかんということで頑張りまして、3ヵ月ぐらいたつと血糖値が落ちてきます。食べる量はほとんど変わっていない。もちろん糖質は夕食の時、少しご飯を食べます。そのぐらいのことはしていますけれども、あとは全然コントロールはしていません。週3回の運動も守っています。三浦雄一郎さん、大変な糖尿病だった。何年前、エベレストに登る前。今は下がっていらっしゃる。

次に、目の衰えについてです。交通安全の標識です。札幌の町の中にいっぱいあると思います。見方からまず行きましょう。この標識、一番上に青森と藤崎とあります。これは青森県の標識ですけども、これどっちが遠いと思いますか。赤く丸がついたのが遠いほうです。覚えておいてください。

以上で終わります。ありがとうございました。

活動事例発表

「高齢者に対する交通安全教室について」

札幌市中央区交通安全運動推進委員会
交通教育指導員 近藤 寿恵

皆さん、こんにちは。短い時間ですけども、どうぞよろしくお願いたします。

中央区では、高齢者を対象に8月から9月、交通安全教室を実施しております。平均時間は三、四十分を目途に行っています。毎年教室の内容を変えて行っています。平成30年度は、中央区内で起きた自転車ひき逃げ事故を初めとした自転車によるひき逃げ事故が相次いだことをきっかけに、実は高齢者教室では自転車に乗らない方も多いのではないかとことから、あえて避けてきた自転車をテーマにしてみました。

目的としては、現在の自転車の利用の状態や状況を知ってもらうこと、2つ目は、正しい

ルールを知ることによって身を守ることにつながってもらうこと、3つ目は、自転車利用者には正しい乗り方をしていただくということを重点として、今回この教材を作らせていただきました。では、実際にどのような内容なのか、皆さんに見ていただきたいと思います。

最初は、北海道新聞に載った記事です。新聞の記事を使うことによって、実は大変なことなのだという思いを持っていただきたい。それから、私には関係ないと思う方、高齢者の方、自転車に乗らないから関係ないという方の気持ちも引きつけられるかなという意味で、この記事を使わせていただきました。

まず「自転車安全利用五則」が載っています。もう1つは「被害者の高まる意識」です。

具体的に話を進めていく上で、自転車安全利用五則を実際に高齢者の方にも詳しく知っていただくという流れになっています。この自転車安全利用五則をあえてクイズにすることで、余り意識のない方にも参加していただいて興味を持ってもらうというふうに今回作りしました。

1つ目は三択になっています。「自転車は、車道が原則」。A B Cから選んでくださいという形ですが、皆さんどれにも手が挙がるのですね。解答が出て画面が変わるという感じです。

この例外とはどんなものなのか、詳しく説明していきます。

自転車安全利用五則の2つ目は、並べかえのクイズにしています。これも皆さん一生懸命積極的に参加して、文字を並べかえてくれます。並べかえの答えの時は一緒に声を上げて読んでくれたりもしています。車道は左側通行ということで、ここで車の仲間になるということも伝えていきます。

車道の左側を走らなければいけないというのをもっと意識してもらうために、ちょっとしたクイズをこの後に設けて、一方通行の道路であれば、自転車は端っこであれば左右どちら側も走ってもいいですかというクイズを行っています。なぜ一方通行の問題なんかを出すのかなと思われそうですが、私たちの事務所がある中央区は一方通行の道が結構多くあるのです。日常的に違反して乗っている自転車をよく見かけるのです。

もう1つ、左側通行であれば反対側に向かって走ってもいいですかというクイズもしています。こういう自転車も実際よく見かけるのですね。このクイズをすることによって、自転車は左側を走る、そして、乗ったら車両になるということを知ってもらいたいのと、もう1つ、いかにルールを守っていない自転車がが多く見かけられるかということにも気づいてほしくてこのクイズを行っています。

次に五則の3つ目です。これも三択にしています。丸の中に当てはまる言葉をA、B、Cから選んでくださいと言っているのですけれども、このCの答えは「年寄り」ですが、ただの「寄り」つながりで、ちょっとしゃれのつもりで入れているだけです。この問題にも割とA、B、C全部に手が挙がるような状況になっています。

実際に、この五則のクイズですけれども、小学校6年生の交通安全教室でも全く同じものをさせていただいているのですが、小学生にこの問題を出すと、Cのところでは笑いが起こりますけれども、高齢者の教室では意外と何も起きないです。解答はBの車道寄りということで、また映像が出ます。どこでも走っていいわけではないですという説明をしているのですけれども、ここはとても丁寧に説明するようにしています。

70歳以上の方は基本的に歩道を走ることができるので、歩道上でもルールをきちっと把握していただきたいという思いを込めて、ここはいつもより丁寧に話します。いつでもすぐにとまれるスピード、そして、人がたくさんいる時は自転車からおりて歩いて歩く。なぜなら歩行者優先だからという話もさせていただいて、ベルを鳴らして人によけてくださいというふうにはしないでくださいという話をさせていただいています。

ここまでを踏まえて、皆さんもご存じと思うのですけれども、全国ニュースになった、中央区で起きたひき逃げ事故の映像です。これを皆さんに改めて見ていただいています。この事故では、子どもが飛び出すほうが悪い、自転車が気の毒だという意見・コメントがすごく

多く載っていたのを見て、私は残念だなと思いました。

ひき逃げしたこと自体はとても大きなことで全国ニュースにはなっていたのですが、実際この歩道は普通自転車通行可の標識がない場所で、なおかつ、自転車のスピードが出ていたということです。お店とか保育園とかもたくさんあるのですが、そこから普通に小さな子がお散歩に行く時に、出ようとしている時にスピードを出して通過する自転車とかがあるのですね。

やはり歩道では、いつでも止まれるスピードで乗ることを心がけていかないと、このような事故はこの先も起きていくのではないかと考えまして、正しいルールを知ってみると、実はこの子もいけないけれども、自転車がいかにもルール違反をしていたかということに気づいてもらえるのではないかなという思いを込めて、あえてこの動画を使わせていただきました。

基本的に問題にするのは、中央区内のことをテーマにして話させていただいています。これは狸小路のアーケードに入る前にある看板ですけれども、自転車乗り入れ禁止になっているのですね。歩行者専用です。優先ではなくて専用なのです。なのに自転車をここに乗り入れている人がたくさんいるのです。

それ以外にも、大通公園出入り口付近も自転車は押し歩きになっているのですが、抜け道として使っている大人の方がすごくいるということで、このような映像を使うことによって、ルールを守っていない人たち、自転車がたくさんいるということに気づいてもらうということもありまして、このような画像も使っています。

自転車安全利用五則の4つ目は、動体視力を使っていただいて、何の文字が書いてあるのか読んでくださいねというふうにやっています。今は何も出ていません。皆さんもぜひやってみてください。準備はいいでしょうか。では、いきます。読めましたか。安全ルールを守ることですね。高齢者教室でも多くの方がこれをきちんと読んでくれているのです。細かく具体的にどんなルールがあるのかも説明しています。

一番上が飲酒運転禁止ということで、ここを丁寧に言わせてもらっています。やはり集まる機会とかがあって、ちょっとお酒を飲んで自転車に乗るという人がもしかしたらいるのかなと考えたりもしまして、実は車と変わらない、罰金が100万円もするのですよというお話を、ちょっと熱く話しています。あとは、ここの部分はさらっと流して教室をやっています。

それから、並進禁止、ライト点灯、信号無視はしないでくださいね、一時停止もしましょう、傘差し運転、携帯電話の使用禁止。この片手運転になる部分も割と丁寧に話すようにしています。雨降りの日に傘を差している人をやはり多く見かけるのです。それ以外に、犬の散歩とか片手運転になるような自転車の乗り方は基本的にしないでいただきたいという話をつけ加えています。また、イヤホン、ブレーキ不良も禁止という話をします。

再び新聞記事に戻って、自転車のルール違反を日常的にしていると、実はそれが当たり前になってしまっているということがここに書いてあるのですが、それでも、「自転車側の認識薄く」ということで、認識が薄いからこそ常にスピードを出して自転車に乗っているのかなとか、アーケード内、わかっているのかわかっていないのか、実はだめだけれども、ぶつかるはずがないとか、そういう思いで乗っている人がいるのではないかと思うのですが、それを当たり前のようにしていると、思わぬ代償につながっていくというふうに、新聞記事を再度利用させていただいています。

実際にどのような事故の事例があったかも説明させていただいています。実はこれ全部未成年が起こした事故の事例ですが、信号無視で4,032万円、無灯火で3,142万円。皆さんご存じの方もいると思うのですが、ライトをつけずに9,500万円の損害賠償命令が出た例もあります。

もう一つ、片手運転をしていて、なおかつ無灯火で女性に追突して、5,000万円の損害賠償命令の話もさせていただいています。自転車は免許がないのですが、一たび事故を起こ

してしまうと、実は自分の未来や誰かの未来を大きく変えてしまう可能性がある乗り物なのだという話をこの部分で説明させていただいています。

最後、5つ目です。ここは穴埋め問題で、子どもは何を着用ですかというお話を聞いて、ヘルメット着用ということで、12歳までのお子さんには、努力義務ですけれども、親御さん、保護者の方にヘルメットをかぶせる義務がありますという話をさせていただいています。これで5つですね。自転車安全利用五則の話させていただいています。

最後に、やはり高齢者の方の事故では横断中の事故が一番多いということで、道路を渡る時に気をつけていただきたい約束を話させていただいています。まず、道路を渡る時一番にすることは何ですかと聞くと、皆さん「右、左、右を見る」と必ず言うのですね。でも、実際は「止まる」なのです。まず止まらないと、右、左、右を見る状態にならないのですね。

まず止まってください、そして、次に、右、左、右、車が来ていないかを見る。そして、車の音を聞く。もし車が来ていたら、とおり過ぎるのを待つ。この止まる、見る、聞く、待つ、を必ず実行していただければ道路横断中に交通事故に遭うことはないはずですよというお話をさせていただいています。

「幼稚園・保育所での交通安全教室」

小樽市生活環境部生活安全課交通安全対策係 交通安全指導員 高田 敏江、土橋 英子

皆さん こんにちは 私は高田敏江と申します。私は仕事を始めて5年なので、不慣れなところもあると思います。そして、このようなところで発表することは初めてなので、すごく緊張しております。このために一生懸命練習してきたのですけれども、練習の成果が出るかどうかは皆さんにかかっておりますので、よろしく願いいたします。

私たちの仕事は、保育園・幼稚園での交通安全教室、小学校での登下校の指導と交通安全教室(歩行と自転車)高齢者の交通安全教室、それと街頭啓発の4つの仕事をしております。その中で、私が一番どきどきして、楽しくて、わくわくするのが幼稚園と保育所のこの発表なのです。普段ここにいるのはみんな保育園とか幼稚園のお子さんたちなので、目をきらきらさせて、くりっくりの目で私を見てくれるのです。今日は、皆さんのことを保育園児、幼稚園児だと思ってやってみたいと思います。

では、最初に挨拶から始めてみたいと思います。皆さん、こんにちは。札幌保育園のお友達はちょっと元気がないのかな(笑声)。でもね、みんな挨拶できたよね。この挨拶できるというのは、とても幸せなことですよ。もしみんなが外に出て、道路で車とバーンとぶつかったらどうなっちゃうかな。そっちのお友達、死んじゃうと言いました。そうね、けがして転んじゃったら大変という子も。そうね、死んじゃったりする。そうなっちゃったりしたら、家族や周りの人、とても悲しむよね、保育所にも来られなくなるね。そうならないように、これからこのパネルシアターで、道路はどこを歩くのかな、渡る時はどうしたらいいのかな、それと信号のお話、道路でやってはいけないことは何かな、この4つのことをお話します。みんなよく聞いてくださいね。では、始めます。

では、今ここに持ってきたこれ何だかわかるかな? と言うと、大抵子どもたちは道路とか線路という言い方をします。それで、はい、これは道路です。道路には何が走っているかな? と言うと、車、バイク、バスと言います。はい、今日は車が走っています。ピンクの車と水色の車ですね。でも、ここは車道だから車が走っているけれども、こういうところに

はおうちもあるよね。はい、おうちが建ちました。

このように、この道路は車も走るし、ここは人がよく通るのですと。こういう時、みんなはどこを歩くかな。じゃ、みんなのかわりに、今日はお友達が来ています。さあ、誰かなと言って、ここでこう出すと、みんな、あ、バイキンマンと言ってくれます。今日は言ってくれないですけども（笑声）

これが出てくると、バイキンマン！ そうですね、バイキンマンです。じゃ、このバイキンマンがどこを歩くか見ていてね。ハ～ヒフ～ヘホ～、よーし、僕は偉いから真ん中を歩けど、えいっ。真ん中を歩きます。えっ？ みんないいかな？ と言うと、だめだめと言ってくれます。そうだよ。バイキンマン、真ん中を歩いています。真ん中を歩いていたらどうなるかな。車が来ます。ブプー、青い車も来ます。あら、ぶつかってしまいます。バイキンマン、けがしちゃうね。実際に子どもたちは、けがしちゃ嫌とか言ってくれる子もいます。こんなふうになったら大変です。ちょっと待ってね。車を戻して、バイキンマン、失敗しちゃったね。ちょっと待っていて。今度正しい歩き方してもらおうよ。今度は誰に歩いてもらおうかな。とやると、アンパンマン！ とみんな喜んでくれます。そうです。アンパンマンです。僕、アンパンマン、正義の味方だよ、僕が正しく歩くからねと言って、アンパンマンに正しく歩いてもらいます。どういうふうに行くかな、見ていてね。はい、こちらを歩きますと言うと、えっ？ だめ？ と言う子もいるのです。だから、ちょっと見ていてね、アンパンマン、歩いています。とことこ、とことこ。あ、車が来た。でも、みんな、見て見て。アンパンマン、顔の上に目があるよね。ということは、前から来た車、あっ、車が来たって分かるでしょう、そうしたら、少し横によけます。よいしょ。

そうしたら、車が行ってしまいます。ブプー。ありがとう、ごめんね。はい、行ってしまいました。そうしたら、あ、車行っちゃった。それでもとに戻ってアンパンマンは歩いていくことができるのです。

このようにして、道路は人と車が走る。そして、そこ、人が歩く道路は必ず右側を歩いてください。右側ってどっちかわかるかなと言って、右手を上げてもらいます。こちら側が右側、こちらが左側。今、歩いてもらっていますよね。こっち右手です。こういうところは必ず右側を歩いてください。いいですか。

はい、じゃ、次です。次は、道路が変身します。今度はどんなふうに変身するのか見ていてね。あれ？ 一本ふえたよ。これ何だかわかるかな？ と聞くと、歩道と言ってくれる子もいます。はい、これは歩道です。じゃ、もう一回車を出してみるねと言って車を出すと、また同じ車？ とかと言われたりするのですけれども、今日は言われなくてよかったです。

ピンクの車と水色の車、ここを走っているの。ここは車が走っているところだから車道といいます。じゃ、ここは人が歩くところ、歩道といいます。歩道がある時はしっかり歩道を歩いてくださいね。じゃ、歩道を誰かに歩いてもらいましょう。えへん！ あ、ショクパンマン。ショクパンマン様に歩いてもらいます。でもね、みんな聞いてくれる？ 歩道でもできるだけ建物寄りのほうを歩いてほしいの。車に近いほうを歩くと、おーとととと、車にひかれたら大変です。できるだけ建物寄りをしっかり歩いてください、いいですか。はい、いいです、わかったよと言う声を聞いています。それで、必ず歩道がある時は歩道を歩いてくださいとお願いしています。

はい、次はもう一回、道路が変身します。今度は何になるのかな。みんな、こんなの見たことあるかな。あるある、横断歩道、信号を渡るんだよ。いろいろな声が飛んできます。今日は横断歩道を渡ってみます。でも、皆さんが渡る時は、横断歩道もあるけれども、必ず安全なところを渡ってねとお願いしています。横断歩道のほかに歩道橋とか地下歩道とかもありますよね。必ず安全なところを渡ってね。はい、じゃ、今日はここを渡るんだけど、誰かが来ています。

あ、ジャムおじさん。おーい、パンが焼けたよ、ジャムおじさんが言っていますね。そうしたら、さっきちょっと失敗しちゃったけれども、バイキンマン、ハ～ヒフ～ヘホ～、今度はちゃんと渡るぞ。バイキンマンが渡るから、みんな見ていてね。よいしょ、よいしょ、よいしょ、あ、パンが焼けたんだって。あれ？ みんな見ていた？ バイキンマン、走ってきて、ここで止まらないでスーッと出てしまったけれども、車来ているよね。車にぶつかったら大変、ちょっと待ってね。バイキンマン、これ間違いだよ、正しく渡ってほしいな。

じゃ、今度、正しく渡る子。やっぱり正義の味方、アンパンマンにお願いしましょう。じゃ、アンパンマン、よろしくね。はい、じゃ、しっかり渡るよ。まずこちらから歩いてきます。歩いてきて、最初にやることは、止まること。ピッ。必ず止まってください。それからどうするのかなと言うと、右、左、右見ると答えてくれます。そうですね、右、左見ましょう。右見て、左見て、もう一回右見て。車来ている？ 車来ている。そうですね。

じゃ、車ブブーッと行っちゃいます。ピンクの車も水色の車も行っていました。じゃ、このままサーッと渡っていい？ だめだよ。もう一回止まって、右、左見るよ。右見て、左見て、もう一回右見て、車が来ていなかったら渡ります。渡っている最中も、最初は右側をよく見て、真ん中越したら左側をよく見て、車が来ないかどうかしっかり見て渡っちゃってください。真っすぐ渡ってね。

はい。このように道路を渡る時、最初にしてもらいたいことは、止まること。右、左見るよりも、まず止まることを最初にしてください。それから右見て、左見て、もう一回右見て、それで渡ってください。渡っている時も、右側に気をつけて。真ん中過ぎたら左側に気をつけて、しっかり真っすぐ渡ってね。はい。このように子どもたちをお願いしております。

このようにして、あと、信号の話、今日はできなかったのですが、手づくりの信号、そのほかにいろいろなパターンを用意して、子どもたちに楽しく、けれども、交通安全をしっかり守らなければいけないんだなという気持ちが芽生えた時に、おうちに帰ってお話ができるように、楽しさも残しつつ交通安全に気をつけなきゃという気持ちで私たちはお話をしております。

これからもそのようにして皆さんと一緒に少しでも事故が減るように頑張ってお話していきたいと思えます。終わります。ありがとうございました（拍手）

「交通安全に向けた啓発活動について」

日本自動車連盟北海道本部
事業部長 中川 順一

正式名称で言いますと今のご紹介のとおりですが、JAFという呼び名の形のほうが皆様方はお聞き馴染みがあると思いますのでJAFと言います。ここで発表させていただくのはJAFの活動のごく一部でございます。

まず、JAFでは年間の行動計画を立てます。2018年度は何をやるのか、何を重点にするのか、そのための施策はどうするのかということを立てます。

もちろんそれが正確にできるかどうか、これはやはりその時期というものがありまして、今年なんかですと、先般の地震の影響とか、そういったものでこの予定とおりにいかないという部分も多少はあります。

これから活動を写真等でお話しさせていただくのですが、JAFでも「ドレミぐるーぷ」というのですが、幼稚園・保育園の園児に対して、先ほどと一緒にような内容をしな

がら、交通安全を知っていただく、もしくは身につけていただく。その中で、ドレミぐるーぷと言う以上は、ほとんどが音楽、歌です。先ほどアンパンマンが出ていましたけれども、要するに、そういったものを信号機に変えてといった形で、歌、音楽といったものでお話をさせていただいております。

着ぐるみ並びにエレクトーン、ハーモニカなんかを多用して、ある意味、お子さんの方々は、何でも吸収しますから、音楽を通して、ハーモニカを初めて見るお子さんもいらっしゃるかもしれない、そういったことから関心の高さを引き出すということで、このドレミぐるーぷも活動させていただいております。

今年度、15回、園児にしますと1,762名の方がこのドレミぐるーぷを受講されております。ただ、大変恐縮ですが、これは札幌圏内だけでございます。

次に、これが私どもJAFの活動としては重要というか要望が一番多い活動になってきますが、交通安全講習会の講師として職員を派遣させていただいております。まず数字だけ先に言いますけれども、2018年度、4月から8月までの間ですが、企業とか団体、そういったところからの依頼が188回、受講された方は、延べ約2万人近くになりました。

交通安全に関しての他ですけれども、エコドライブ講習会です。やはりエコドライブも、皆様方もうご存じだと思いますけれども、ふんわりアクセルといった形で、車間距離をとりましょう、早目にアクセルをオフにしましょうといったエコドライブ10則がありますね。そういったものを改めてこちらの講習会で講習させていただいて、さらに意識を高めていただく。イコールとして交通安全につながっていくであろうということで活動させていただいております。エコドライブ講習会は、今年度4月から8月までですけれども、6回、受講者329名という方々にお話をさせていただいております。

「JAFさん、来てください」と講師で呼ばれるのです。11月何日、4時から1時間、交通安全のことを話してくださいということでご依頼があります。では、誰でも行って話していいのかということではないです。講師として行っているのは、札幌支部の職員です。この職員は、別に国家資格があるわけではございませんけれども、JAFの社内規定の交通安全講習会講師のB級試験というのに受からなければここには立てないのです。

そのB級試験に合格するためにはというと、しゃべり方や立ち居振る舞い、データのつくり方、そのデータに対してのしゃべり方などについて、いわゆる第三者と申しましょうか、私も含めてですけれども、内容とデータが合っているかまどを聞いて、「よし」ということで皆様の前に立っていただいております。

ですので、人の前でお話するには、それなりの試験というものを実施しております。

これは全道的に展開してまいりますけれども、シートベルト着用100%啓発運動ということで、各企業とか団体とか、ある意味、今日いらっしゃるボランティアグループ、ボランティアを主体としている各地域の団体と言っているのでしょうか、そういったところでも構いません。要するに、従業員全員が後席のシートベルトを絶対するよというような形で宣言書を書いていただいて、私どものほうに提出していただいております。

提出していただいた企業には、おたくの会社、企業、団体、従業員の皆さんは、後ろに乗ったらシートベルトをしますね、ドライバーとして後ろに誰かが乗ったならば、同乗者には必ずシートベルトをしてもらおうようにお願いしますねと。「はい」と宣言していただいた人をファクスでもらって宣言書というものをしています。これで全て100%というのが望みですけれども、これからはやはり継続した活動、もちろんボランティアの皆様方の継続した活動というのが非常にこれから大事になっていくと思います。我々JAFもこういったものは継続してまいります。

右側にあるのは、シートベルトコンビンサーを全道でイベントとかで展示、また、体験をしてもらっています。今年度でいいますと、全道を30回駆けめぐって、1,465名の方がシート

ベルトってやはり大事だね、重要だねと。そうですよ、だから、後ろのシートベルトは必要なのですよということを実感していただく。

悲しいかな、高速道路とかの横転事故で後ろの席から車外に小さなお子様が投げ出されてお亡くなりになってしまうというような悲しい事故もゼロではございませんので、そういったことを改めてシートベルトコンビンサーで体験していただいた後に、我々がお話をさせていただくということで活動しています。

次に、こちらはタイトルが「全国実態調査とホームページでの啓発」ということで、皆様方、シートベルトの着用率というのは、ニュースとか新聞、その他発刊物などでご存じだとは思いますが。北海道はどうか、全国はどうかというのはご存じだと思いますけれども、このシートベルト着用率の数字は、JAFと警察庁で全国一斉に行います。ちょうど今月、10月1日から10月10日の間に全国で同じような企画内容でシートベルト調査を開催いたしました。

まだちょっと集計が出ていませんので、こちらのほうに出ているのは、昨年度、2017年度の全国のシートベルト調査の結果ですけれども、JAFと警察庁とで合同で調査させていただいて、皆様方に実態の数字をご報告させていただいております。先ほど言いましたとおり、着用率のパーセンテージ、前の席はどうか、後ろの席はどうだったか。

この表を見ていただきますと、昨年度の結果でいうと、北海道は後部座席が全国平均より高いのです。だからといってこのパーセンテージが良かった数字なのか。先ほどありましたけれども、目指すのは100%です。前の席も後ろの席も100%です。その活動をこれからも進めてまいりますので、この辺でどういう形でやっているのかとか、今までちょっとお話ししましたけれども、交通安全講習会にしてもそうですし、こういったシートベルト調査の結果でもいいです。そのほかにもJAFでは、いろいろなアンケート調査並びに実態調査をしております。

JAFのホームページに入ってくださいと、全国で開催したいろいろなアンケート調査や実態調査の数字を出しています。これは皆さんどなたでも入っていただいて、データは抜き出していただいて結構です。ですので、シートベルト着用率だけでなく、目立ったものでは、「あなたはながらスマホをどう思いますか」「歩きながらスマートフォンを操作するのはどう思いますか」、全国調査をやります。

「危険」という方が「わからない」という方を含めて約7割近くはいるのです。でも、札幌市を考えてもまだまだいますよね。最悪の場合は、スマホを操作して自転車に乗っている方もいらっしゃいます。もしくは、スマートフォンは操作しないまでも、イヤホンをしている方がいらっしゃいますよね。絶対に外の音は聞こえないですね。クラクションが鳴ろうが、危ないと言おうが、何しようが聞こえない場合もあります。

ですから、そういった形で、いろいろなデータ、数字といったものを私どものホームページから活用してください。どんどん引き抜いてください。数字が今こうなっているよ、アンケート調査ではこれだけのパーセンテージの人が困っている、危ないと感じている。「これ」JAFさんのデータだけでも、データとしてあるのだよ」という形で、ご活用いただければなというのが私の率直な今の考えです。

ホームページに進む上でも、なかなか難しいという場合は、遠慮なく私宛てにご連絡ください。また、交通安全講習をやる場合も、どうやって伝えたらいいのだろう、どうやって話したらいいのだろうとか、少しでも話し方の参考になればということで、お電話とかいただければ、「そういう時は、このようなデータ、このような内容でお話ししたらどうですか」というようなアドバイスができるかと思えます。

かわって行くということはいかなる場合でも、そういったお話を、伝える、わかりやすく伝える、そういったことは我々も、先ほどありましたけれども、B級試

験を通った札幌の職員も含めまして、そのようなお話をするように、もしくはできるように練習をしておりますので、遠慮なく私どものほうに言っていただければ、先ほども言いました、しつこいようですけれども、参考までのことであれば皆様方にお伝えできるかとは思いますが。

JAFというと、冬場バッテリー上がりで来るぐらいかなとか、事故ったら引っ張るだけかなというような思いもあるかもしれませんが。確かにそれも仕事ですけれども、こういった交通安全活動も本当に一番に来る仕事です。

ちなみに、若干お時間を頂戴して、この間の地震でちょっと停電がありましたけれども、JAFの救援依頼が1日で普段の約2.7倍になりました。何が一番多かったと思いますか。大体ぴんところられる方。ガス欠？ バッテリー上がりです。要するに、一昼夜エンジンをかけないで車の中にずっといるのです。車の中でラジオを聞いたり、電気も使ったり、そういったことであの時の救援で一番多かったのはバッテリー上がりです。

だからといって、エンジンをかけていいのか。車庫の中でエンジンをかけて一昼夜いたらどうなりますか。危険です。ですから、1週間後ぐらいに、「JAFさん、どうしたらいいの？」という電話が来るのです。まず避難しましょう、まず助かりましょう、死なないようにしましょう。避難所があるのなら避難所に行きましょう。

交通安全もそうだと思います。誰かから「こうやったら事故ってなくなるよ」という手助けだけで助かりますでしょう。やはり自分が行動しないと、自分で自分の身を守っていかないと。やはり皆様方がボランティアとして「自分の命は自分で守ってくださいよ」ということをまず伝えてあげるのが一番ではないでしょうか。それをわかりやすく伝えていくというのが一番ではないかなと思います。

最後に、ちょっと何か宣伝みたいで嫌なのですけれども、今言ったことをホームページ上でちょっと知りたいな、スマホで知りたいなということであれば、本当にアルファベットのJAFで検索していただきましたら、トップページの中に「交通安全」というのが出てきます。交通安全から入っていただきますと、先ほど言いましたけれども、いろいろなアンケート結構、データ、それから、私どもがやった実験映像なんかも全て皆様方は見られます。その中には取り出してもいいものもありますので、ぜひともご活用いただければと思って、今日お話をさせていただきました。

これで終了させていただきますけれども、本当に小さなことでも何でもいいですから、聞いてください。こちらのほうで対応できることは全て対応させていただきます。それが交通安全につながるのであれば、なおさらです。そういったことで一緒に活動していきたいなと思っています。よろしく願いいたします。今日はどうもご清聴ありがとうございました。

【2日目】

講演

「交通安全とボランティア活動

～地域・家庭での交通安全を確保するために～」

安全教育研究所 所長 星 忠通

ただいまご紹介いただきました安全教育研究所の星です。まず、今回の台風、地震の被災者の皆様に心からお見舞い申し上げたいと思います。

1. ボランティアの意味・語源と日本の実態

テーマに入る前に、クイズですが、私が申し上げる幾つかの言葉連から連想して、実在の人物を当ててください。分かった段階で手を挙げてお答えください。

キーワードの1つ目は、大分県。2つ目は、行方不明の男の子。3つ目は、年金。4つ目は、オレンジ色のつなぎ服。さぁ誰でしょうか。・・・そうですね。名前は尾畠春夫さん。この方が最近ボランティアとして非常に注目された方です。活動費は年金から、謝礼は受け取りません。65歳で、お魚屋を畳んで、様々な被災地に行って、その場所で寝食しながらやっている。中々出来ることではありません。

まずボランティアの語源ですが、語源は「ボランタス」というラテン語で、意味は自発的とか自由意志ということです。このラテン語に対しまして、ボランティアは英語ですが、その語源はどこかということ12世紀ぐらいに遡ると言われています。すなわち、ボランティアの意味は「志願兵」だそうです。これは当時の騎士団とか十字軍、自分たちの国を守るという意味で志願した人たちというのが語源の一つだそうです。これは、我々日本人と違うところだと思うのですが、ここには宗教的色彩が非常に強い。当時の戦争は宗教戦争とも言われるぐらいに宗教色が強かったと思うのです。しかし、日本人には、また別の意味で、ボランティアという言葉それ自体は使っていませんが、「奉仕活動」というものがあります。私の子ども頃、地域の中で道路普請がされました。そこに地域の人たちがシャベルを持ったり、モッコを持ったりして道路を整備しました。ドブ掃除も1つの奉仕です。では、ボランティアといわれる背景には、どういう原則があるのだろうか。ボランティアと言われるためには4つの原則があると言われています。1つ目は、人からの命令や強要でないこと。極めて自発的あるいは自主的な活動であることです。先ほどの尾畠さんの活動は、65歳で魚屋を畳んで、ガソリン代は自分の年金から出す。人からの命令で動いているわけではないということで第1の条件を満たしているのが分かります。

2つ目は、社会の課題について努力する活動。例えば胆振地震もそうでしょう、この前の台風被害もそうでしょう、東日本大震災もそうでしょう。そして交通事故も社会の大きな課題でした。3つ目は、活動した対価や見返りを求めない。尾畠さんの話で、「上がってお茶でも」「食事でも」「謝礼を受け取ってください」と言われても、「いや、結構です」という無償性ということです。最後の4つ目は、ある程度の活動の継続性があるということ。ある程度の時間、年数をかけて活動していくという継続性です。ところが、活動の対価、見返りを求めないという無償性というのが今ネックになっています。少しぐらいの対価、少しぐらいの見返りはあってもいいのではないかと。そうしないとボランティア活動は継続していかないよという意見です。特に交通ボランティアの場合、何十年とやっていた場合、どんどん高齢化が進んでいます。では、次世代の人たちにお願ひしましょうといっても、なかなか集まりません。何らかのメリット、お金でなくてもいいでしょう、メリットがないと集まりません。少

なくとも皆さんは、人から命令や強要された活動ではなく、自主活動、我々は交通事故防止という社会の課題について努力する活動で、対価や見返りを求めない活動、そしてある程度継続していく活動で、まさに皆さん方は、このボランティア活動の中心人物であることが改めて理解できるのではないかと思います。

今、世界で一番注目されているボランティア活動を1つご紹介します。ドイツの事例ですが、「ラストドライブ」、最後の運転、運転というよりも車に乗るといえるのでしょうか。ホスピスの話です。末期がんの患者の願いをかなえるというものです。死に近づいた人は最後に強い願いを持っているそうです。ある末期がんの患者は、死んだ夫と昔一緒に訪ねた海岸にもう一回だけ行ってみたいという強い願いを持っていたそうです。ドイツの黒海に面したカトウェイクという海岸だそうです。町を中心から片道300キロくらい離れているのです。でも、この願いをかなえてあげようというボランティアが集まりました。中古の救急車を使って、中にはベッドが置いてある。その救急車を運転するドライバー、介護の車椅子を押すスタッフ、合計3人で、彼女(患者)が望んでいるカトウェイクという海岸まで行って帰ってきたそうです。もちろん全て無料で、ボランティアの彼らが支払っているそうです。では彼らがどのような意識を持っていたかと言いますと、昔の借りを返す。昔、自分がお世話になった、その借りを今、返す。人に喜んでもらう、それが楽しいのです。

人に喜んでもらうというのは、多分皆さん方も全く同じだと思うのです。「おじちゃん、ありがとう、おばちゃん、ありがとう」「行ってきます」。やはり「やっていた良かった」「やりがいがあるな」と感じ、だからここまで続けてきたということも言えるのだらうと思います。ただ、この事例の場合は、行っても大丈夫ですよという医師の診断書は必ずとって行く。それから、到着地点の海岸での受け入れもある程度できた上で出発しているということです。ちなみに、車椅子で散歩したこの高齢女性は満足感いっぱい帰ってきたそうです。その後9日目に息を引き取ったということです。心に残るボランティアとは何だろうか、いろいろな問題や悩みはあるけれども、心に残るボランティア活動する側、あるいはされる側というのを我々はもう一回考えていく必要があるのではないかと思います。

2. ボランティアの現状・実態

さて、日本のボランティア活動の実態調査で、日本の特徴というのでしょうか、活動の担い手は女性が非常に多いということと、60歳以上の女性、ある程度余裕ができたという意味だと思いますが、そういう実態が明らかになってきた。半面、男性の参加は3割止まりです。さきのドイツのケース、これは全て男性です。それも退職した人が中心になっているということです。

活動の領域、分野で見ますと、上位は、環境保全・自然保護が全体の2割を占めています。まちづくりに関わるボランティアが15%くらい。環境保全や自然保護、まちづくり、あるいは災害、この辺のところ上位になっている実態ということです。

もう1つ、資料はお配りしていませんが、「日本のボランティアに関わる国民意識」というのが出されております。1万3,000人のデータですが、1つは、「今までボランティア活動の経験がありますか」という質問をしております。これは最近5カ年のトータルですが、5年間のボランティア活動の経験、または興味や関心がありますかということです。関心はあるけれども、具体的なボランティア活動には参加していませんというのが一番多くて全体の45%でした。約1万3,000人の中で参加したことがあるのは、大体何%くらいだと思いますか30%?。15%? 実際には9.2%。1割です。この数字を多いとみるか少ないとみるかは、人によって違って来るだらうと思います。もう1つは、今度は「どんなきっかけで参加しましたか」についての回答。一番多いのは、自発的に行っていましたというのが高く49.0%。それから、講習会とか研修会みたいなことをきっかけに参加しましたというのは12.7%。地

元の自治会とか子ども会なんかのお誘いが33.5%。もう1つあります。「ボランティア活動への興味や関心はあるが、やったことがない」人は53%。この結果、私が思っていることですが、やり方いかんによっては、日本の様々な分野のボランティア活動というのは、まだまだ余地があるのだなということ、このデータは示しているのではないかと思います。

次に、日本には一体どのぐらいのボランティア団体があるのかという調査結果になります。ボランティア数、あるいはボランティア団体数は、約800万人が12万団体ぐらいで活動しているという調査です。活動を阻害する要素・原因として一番多いのが、「メンバーの高齢化」。これはリーダーも含まれております。それから、「新しいメンバーが補充できない」、「中心的リーダーが少ない」、「活動する上での財源が決して潤沢ではない」ということがこの全国調査で示されている結果です。

では、「なぜ今ボランティアか」と言われてきている背景の1つには、災害の発生がここのところ本当に多いということですが、私がここで特に問題化したいのは、肥大化した政府や自治体、それに伴う税収が減少しているということです。ご承知のとおり北海道夕張市。要するに、市が財政破綻してしまう。要するに、地域住民がやらないとその活動は税金ではカバーできなくなってきている。ひどい例ですと、市役所の職員に給料が払えなくなってくるということです。給料が払えないということは、職員が辞めていくという問題が生まれてまいります。交通ボランティア活動のところに戻りますけれども、先ほどもちょっとお話ししましたが、例えば今日ご出席の母の会、2011年に全国組織が解散されました。ここで言いたいのは、そういった組織を発展させるか衰退させるかは、何をした組織なのか、どういう活動しているのかというのを1つの評価点に置いております。誰が見ても、あの活動は一生懸命やっているよね、この活動は地域の人が一生懸命やっているよねと、目に見える活動も住民へのアピールとして大事だと思えます。

3. 交通ボランティア・リーダー

次に、ボランティア・リーダーの不安・不満というところに移っていききたいと思います。そのために、きょう読売新聞の人生案内のある記事を持ってまいりました。紹介してみたいと思います。「70代の男性。実は活動を辞めたいと思っております。通学路に立って交通整理をしたり、ひとり暮らしの人の見守り活動をしたり、訪問したりしております。難しいことが多いです。ある時、道で挨拶しても大人も子どももほとんど返事を返してこない場合があります。また、全員ではないですが、身勝手に都合の良い時だけ様々なお願いをしに来たりしております。細々としたことを含めると、月に10日か20日ぐらい活動をしています。私も孫や友達と遊びたいと思う時がありますが、ままなりません。友人からは忙しい人やねと言われます。全てボランティアですが、役所から給料をもらっていると誤解されております。私は何でも引き受け過ぎだと前々から言われてきました。そろそろ私はもうこの活動を辞めさせていただこうかと思っております」という投書というか人生案内です。

多分全てがその記事と同じではないと思いますが、皆さん方の中には思い当たるふしも少なくないのではないかと思います。いかがでしょう。やはり時々もう辞めようかなという気持ち芽生えても、決してそれは恥ずかしいことでも何でもありません。一生懸命やっていたらやっていると、そういう気持ちになるかもしれません。ボランティア・リーダーの不安や不満ということ、1つには、一般住民の交通安全意識や危機感というのが、交通事故の減少に伴って、もう交通安全はいいのかなと思う住民も少なくないと思います。あるいはボランティア・リーダー自身の中に充実感・達成感が必ずしも高いとは言えないと思っている方もいらっしゃるかもしれません。

次に、リーダーやメンバーの年齢が高くなってきている。何をしたらいいのか。皆さん方が、我々のボランティア活動に協力してください、参加してください、リーダーになっ

てくださいと言ったとしても、なかなかそれは達成されないのが現状かなと思います。

きょうご提案申し上げることは、そういう中で、本当に交通ボランティア活動を次の世代にバトンタッチしていくためには、私は2つの大きな要素を考えないといけないかなと思います。その1つは、ボランティアの4原則、特に「無償性」。それをそろそろ撤廃してもいいのではないかと。最低のお弁当代とか最低のメリット。それがないと今の新しい世代、次世代のボランティアは、私は誕生してこないのではないかと、特に交通安全では誕生しないのではないかと思うのです。これについて皆さんは多分、メリットを上げるために我々は活動しているのではないというお叱りを受けるかもしれません。しかし、新しい人たちをメンバー、リーダーに迎えようとするためには、やはりメリットというものも必要ではないかと思えます。提案の2つ目は、ちょっとしたボランティア、「ちょボラ」の実現。交通ボランティアの「ちょボラ」体験ということを示してみたいかがでしょうか。この「ちょボラ」活動を行政にお願いして協力を求めることも大事だと思うのです。地元の中学校や高校、教育委員会と町の交通安全担当で、皆さん方の活動と一緒に参加する児童生徒を募集していくというお願いを行政にしていくことも、実は遠回りのようですが、皆さん方の次の世代のボランティアを養成していくことにもつながってくるし、交通ボランティアってどんなことをするのかということ子どもたちに体験させることもできるわけです。

4. これからの交通ボランティア活動

私は、地域の交通安全活動あるいはボランティア活動の中で大事な点は何か、常にそんなことを考えておりますが、やはり皆さん方の活動を具体的な形で住民に訴えかけることが非常に大切だと思います。単に、「夜間は横断に気をつけましょう」「道路を渡る時には信号を守りましょう」ではなく、もう一歩踏み込んだ活動。つまり、誰でも分かる具体的な活動の提案、活動の実施ということだと思うのです。

例えば、高齢ドライバーはこれから年々増えていきます。その中で提唱している1つは、高齢者の心身機能が低下する。特に目が見えにくい。車を運転する場面の8割以上は目から情報が入ってくる。1割は耳から入ってくると言われています。正しい情報がきちっと入らなければ、幾ら色々説明したとしても、安全な行動、安全な運転は達成できません。

そこで、運転する時には、運転席と後ろ側の窓を2センチでいいから下げましょうね。これは具体的ですね。今の車は非常に密閉性の強いのですので、せめて窓を2センチ下げることによって外の音が入りやすくなるということです。もう1つは、高齢ドライバーになってきますと、運転中も様々な点で意識が低下しがちだと言われます。それを低下させないための努力。ちょっと古いのですが、昔の国鉄のときから導入されておりますけれども「指差呼称」です。車に乗っていて信号が変わったら「信号よし」というように、自分に意識を取り戻させる、意識を活性化させていく努力も大事になってくるだろうと思います。

運転中に声に出して、かつまたハンドルの親指だけを立てる。これで意識化は図られてまいります。「左に自転車あり」、親指を立てる。歩行者が右側からきそうだな、親指を立てる。交差点を通過する時に、「正面からバイクあり」、親指を立てる。運転中の高齢ドライバーの意識を高めていく方策というものも、皆さん方は地域の中で具体的に、一言でもいいです。こういう活動を進めていったらいいかなと思います。

それから、私が提唱しているのは、高齢歩行者の爪先上げ歩行ということ。爪先を上げる歩行。高齢者になりますと、一般に転びやすくなると言います。ましてや道路で転ぶのが怖いのです。ということは、歩行姿勢はどうなりますか。つまり転ばないように下を見て、突起物はないとか滑らないか、ということで前かがみの姿勢になってきます。これが自然です。これを少し変える必要がある。前かがみの姿勢になると、信号が変わるとか対向車が来るとか、なかなか目に入りません。そこで、「歩く時は、ゆっくりでいいですよ、しかし、

意識的に爪先を上げて歩くことを心がけてみませんか」という一言。これができるようになれば、あるいは心がけるようになれば、当然視点が上を向いてまいります。こういう一言、ワンポイント指導が地域の中では大事になってくるだろうと思います。もう1つのポイントは、夜間の高齢者の横断時の事故というのは、運転席側から見ると、右から左へ渡って行って、そろそろ渡り終わるかなという時に事故に遭ってしまうケースが多くなると言われています。これはどうしてかという、2つの理由が考えられています。1つは、車の前照灯はどういう向きになりますか。左側の方を照らすように作られています。見える、照らされる照射範囲は左側が広がっています。ですから、右側から横断して来る人は見にくいものです。もう1つは、これは加齢も影響するのですが、横断者が自分の歩く距離と時間、目測を誤るといふことがあります。福島県の警察署では、夜間、特に高齢者に対しては、渡る、確認する方法は、従来とは逆に、左を見て、左から車が来ないか、右を見て、もう一回左を見て、絶対大丈夫だと確認したときにだけ道路を渡りましょうねという、こういう確認の方法についても皆さん方から地元の高齢者にご指導、周知していただければよろしいかなと思うのです。

最後になりますが、結局は、我々交通に関わる者としては、これまでの活動の目標をそろそろ変える時期に来ているのかなと私は思うのです。どういうことかと言いますと、今までの我々の交通安全活動の目標は、交通事故に遭わない、交通事故を起こさないということが活動の原点だったはずで。

しかし、交通事故は減ってきている、死者も幸いなことに減ってきていると、今まで言ってきた2つだけではカバーし切れないし、若い人たちを含めた住民も納得しなくなってきています。そこで、もう1つ目標としてつけ足すことがあるのではないかと、あるいはそれがメインとなってもいいのではないかとと思うのは、自分が交通事故の誘発者にならないということに目標を置きかえることが必要ではないでしょうか。誘発者にならないとはどういうことかという、自分の行動、自分が運転して、自分が自転車に乗って、あるいは自分が歩いているという自分の行動が、周りの車や自転車に影響を及ぼして、その結果として、第三者の事故を誘発させる。起こさせることにつながらないような交通安全というレベルを一步上げるということです。自分の行動が、他の車や自転車、バイクに危険な影響を与えないための行動という運動に変えていくことが必要かなと思います。

時間になりましたので私のお話はここで終わらせていただきたいと思います。どうもご清聴ありがとうございました。

グループ討議の結果

グループ名	1 - 1班 子どもの交通安全
討議テーマ	子どもの交通安全「地域で子どもを守るためには」
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの登下校の見守り活動 ・交通安全教室（小学校、幼・保育園）での指導 ・地域での日常的な啓発活動
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに交通安全の意識を浸透させ、それを継続させる難しさ ・保護者の交通安全に対する意識が低下（共働きの家庭が多く、多忙な世代） 「交通安全は家庭から」のスローガンへの意識が薄れている ・地域の方に見守られているという感謝を忘れている
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で地域のスクールガード・見守りの方を全校に紹介する。その後、学校に写真を貼り、顔を知ってもらう ・PTA（保護者）に登校時、交替で立哨指導に立つ等の活動の促進 ・交通安全のミニ運動会を行う地域もある ・企業に声を掛けて交通安全教室を開催してもらう（ヤマト運輸、自動車学校等） ・地域のスーパー等で、小学生にとる交通安全の呼びかけやティッシュ・手紙の配布等を行ってはどうか ・PTAの広報誌に我々の活動内容を載せてもらう ・交通公園等を利用して、体験型の活動を行う

グループ名	1 - 2班 子どもの交通安全
討議テーマ	・子どもの交通安全啓発方法と地域との連携の課題
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室指導者、指導員、母の会でそれぞれの活動を実施している ...企業の協力の下、内輪差を教える教室の実施 ...月1回、保護者と先生が通学路に立つ「朝の一声デー」 ...指導員が不足しているので、見守りボランティアに依頼。それでも十分ではないという声もある
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・学校側、保護者の意識の低さが見られる ・子どもたちの意識を高めるためには、身近な地域の協力が必要
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・我々は、出来ることはやっているが、啓発品を配布するだけではだめではないか ・交通安全教室では、年齢に合わせて事故の実例を挙げて具体的に指導する ・学校によって力の入れ方に違いがあるので、PTAの協力を得て、学校を巻き込んで、子どもと保護者、地域の方々の交通安全に対する意識を変える ・『意識・関心のない人をどう変えていくか』が大きな課題である

グループ名	2班 高齢者の交通安全
討議テーマ	高齢者の交通安全
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブを訪問し、反射材の実演を行った後、本人の了承を得て、私物に貼り付ける ・地域の社会福祉協議会や警察、高校生などと独居老人を訪問し、交通安全の啓発を行うとともに、社会との関わりを持ってもらう
課題の抽出	<p>免許返納後の交通手段の確保 地域との関わりを持たない方への啓発手段</p>
対応策	<p>新たな公共交通機関の整備には費用、時間がかかるため、スクールバスへの乗車を許可する等、今ある交通手段を最大限活用できたら良いのではない 行政又は社会福祉協議会と連携し、チラシやハガキを作成して郵送し、目に触れてもらえるようにするのが良いのではない</p>

グループ名	3班 自転車の交通安全
討議テーマ	・自転車運転者に対する交通安全について
活動状況	<p>各地域によって異なるが・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室（小学校、幼・保育園、高齢者） ・高校生対象に警察と黄色切符を切る ・啓発（自転車の乗り方など） ・セーフティーコール ・スクールゾーン
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルメットの努力義務化になったが、着用している人はほとんどいない ・どうして違反切符を切られてしまったかということが分かっていない（イヤホンをしながらかけている人が多い） ・自転車で事故を起こした時の賠償金の額が高額であることを知らない人が多い
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・大事な自分の身を守るためにもヘルメットを着用してもらえよう声掛けをする ・自転車の乗り方を今一度認識してもらうためにも、パンフレットの配布、声掛けなどを行う ・保険への強制加入をさせる学校もあるが、高齢者で自転車保険に加入していない人が多いので、TSマークについてのパンフレットの作成や声掛けをする

グループ名	4班
討議テーマ	・飲酒運転の根絶
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントが多い時期に飲食店にチラシを配布する ・子どもから大人へメッセージ送る ・メディアや報道機関を通じて広報やチラシを入れる ・アルコールチェッカーの活用 ・成人式に出向きリーフレットなど啓発活動 ・免許更新時に飲酒運転の講話をする ・飲酒運転ゴーグルを講習時に体験させる
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・飲酒運転根絶イベントの参加者を増やす ・運転者本人への意識向上 ・飲酒店への理解 ・活動のための予算
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・飲酒関係店にも理解してもらう ・家族から本人への啓発促進 ・地道に啓発を行う ・職場にアルコールチェッカーを設置してもらう ・代行車利用をさらに広める ・広報誌や新聞に掲載

2日間に亘りまして、どうもお疲れさまでございました。最後の講評ということになりましたので、感じたままを發表させていただきたいと思います。

まず1日目は、溝端先生の講演がございまして、特に先生は説得の心理学に焦点を当ててご講演されたわけです。溝端先生のおっしゃりたいいろいろな意味があったと思いますけれども、1つは、我々の街頭指導も含めて交通安全の中では注意をすることが非常に大切だというのは我々みんなが知っていることですが、上からやるのではなくて、下から出ていく効果があるのだよと。喜び、褒めることの大切さという意味が指導の効果も高めていくのだと。そういったことを中心に溝端先生は我々にサジェスチョンをしていただいていたのかなと思います。

引き続いて活動事例発表が3つございました。1番目は、地域密着型の指導に努力していますよと。確かに一方通行の多い地域なので、それを生かした教材も含めて指導しているという大変大事なポイントであろうかなと思いました。

2番目は、指導方法の1つ。やはり幼稚園・保育園でしたが、子どもとの即答的な交通安全という形を脱皮しよう、聞かれたら答えるという反応的な指導ではなくて、それを何とか変えたい。そのためになされてきたものが発言を引き出す努力を先生方あるいは指導者の方がやる。子どもの発言、何々ちゃん、どうしたかなという発言を引き出す努力というのは、実は子どもたちなりに考えられるということにつながってくる、直結しているという、その点のご発表に大変印象を受けました。

3番目、JAFのご発表がございました。これはやはりJAFでないとできない。特に何かといいますと、情報量をたくさん持っているということ。だから、我々はJAFさんに、こういった情報がありませんか、こういったところ参考になるものはありませんかということ徹底してご協力いただくことの大切さということがJAFの中川さんから発表されたかと思えます。

次は、今日の午前中は、私がちょっとしたお話をさせていただきました。どこまで参考になるかわかりませんが、ボランティア活動に焦点を当てて1時間お話をさせていただきました。その後、ただいまのグループディスカッションに入りました。

このグループディスカッションというのは、実は今までの交通安全活動は、ヒトとモノとカネ、これが三大要素と言われている。効果的な交通安全活動がこの3つによって構成されるということは昔から言われていました。しかし、今日「情報」という新しいものが加わりました。すなわち、交通安全活動を効果的に進めていくためには、カネ・ヒト・モノのほかには、情報というものが入りましたので、この情報を今日ここで話し合いしていただいたということは、まさに大きな意味を持っております。あの地区ではこんなことをやっているのか、そういう意味での活動報告であり、初めて同じ問題、同じ活動をしている隣の人とコミュニケーションが図られたというのも今日のこのテーブルの持つ意義であったと思います。そういう意味で、情報に対する報告が今回出されたということは非常に大切だなと思えます

2つ目は、大事だったなと思えますのは、関心のない人たちへどうしていくのか。これは子どもの保護者だけではなくて、高齢者に対しても同じことなのですね。何かの大会あるいは何かの集まりがあります。出てくる人はいつも決まっています。問題は出てこない人をどのような形で参加していただくのか、これは永遠の課題でもあるのかなと思います。

3つ目は、大変難しいかもしれませんが、これから地域の企業とどのように協力をとっていけるのかということ、よく考えていく必要があると思うのです。活動資金に関してもそうでしょうし、人の提供に関してもそうだと思います。そう簡単ではないとおっしゃいますけれども、企業とどうやって地域の中で交通安全を推進していくのかということも、また新

たな1つのテーマとして考えられるのではないかと思います。

4つ目は、高齢者。難しい、確かに切りがないとおっしゃられたとおり、難しく切りがないということですが、粘り強く続けていくということだと思います。ただ1つ、免許返納というのは、大変難しい問題だと思うのです。ご発表にありましたとおり、代替交通をどうするのか、その問題もあるでしょう。今日スクールバスを活用して代替交通にかえたらどうかという提案、これは大変すばらしいと思います。イギリスなんかでは、ポストバスシステムといいまして、郵便車の後ろに座席を2つ作りまして、必ず郵便車が地域を細かく走っていますので、病院に行きたい、買い物に行きたいという高齢者の方、特に独居、1人の高齢者に対してはポストバスシステムが非常に評価されているという情報が入っております。

5番目の自転車。これも非常に難しい問題ですが、保険というものはやはりこれから考えていかなければいけない、もっともっと積極的にとっていかなければいけない。TSマークも含めてですけれども。

もう1つ、例えば東京なんかでは電動自転車で通園をしているお母さんたちが非常に多いのですが、あの安全という問題が1つ出てきております。その中でも、今日ご発表された、迷っていること、あるいは悩んでいることが共有できたという、これも非常に情報交換の中では大事な結論だったのかなと思います。

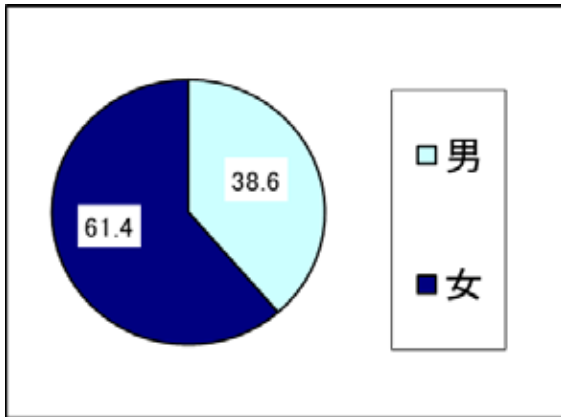
最後、飲酒運転。これも難しい問題ですね。どう見ても絶対策というのはありませんよね。ただ言えることは、今まではどちらかという関係者だけの活動だったというご発表がありましたけれども、一般市民を巻き込んだ活動にもう少し幅を広げていく、裾野を広げていくということで、これは大切な活動なのかなと思います。

もう1つ出てきたのが、ちょっと横道にそれてしまいますけれども、そちらのテーブルで、大変すばらしい新聞のスクラップ、ちょっと見せていただけますか。大変失礼なのですが、ちょっとのぞかせていただいて、こういう様々な交通関係のニュースがテレビや新聞にいろいろ出ています。こういうデータを整理されて持つておくと、いわゆる今の地域、自分たちの活動上で何が問題なのか、どんな状況になっているのかということを確認することもできるし、自分自身の知識にもつながる。その知識を一般活動の中で生かしていこうという、大変すばらしい。こういうことも我々指導者、リーダーには必要になってくるということをご報告させていただいて、私のほうの講評にかえさせていただきたいと思います。

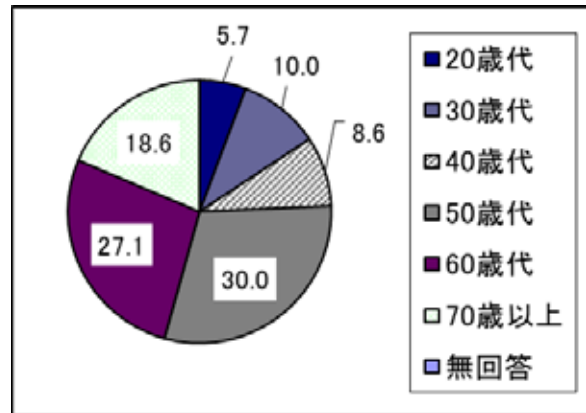
どうぞ皆さん、今後とも地域の交通安全のためにご活躍いただきますようお願い申し上げます、終わらせていただきたいと思います。どうもご苦労さまでした。

3. アンケート集計結果

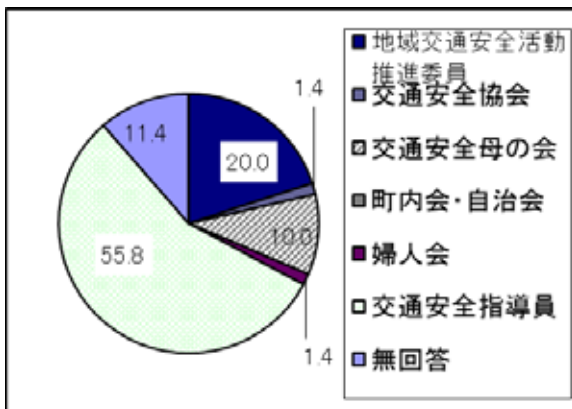
1. 性別



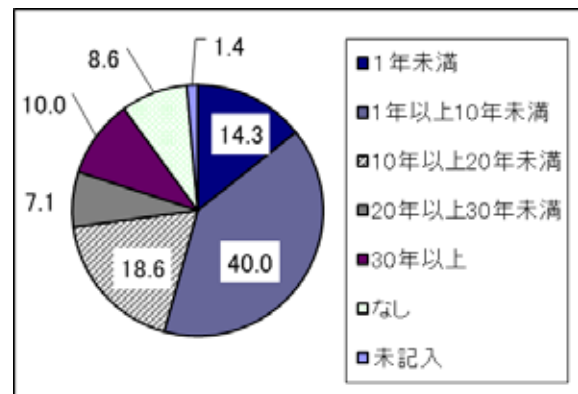
2. 年齢



3. 所属団体

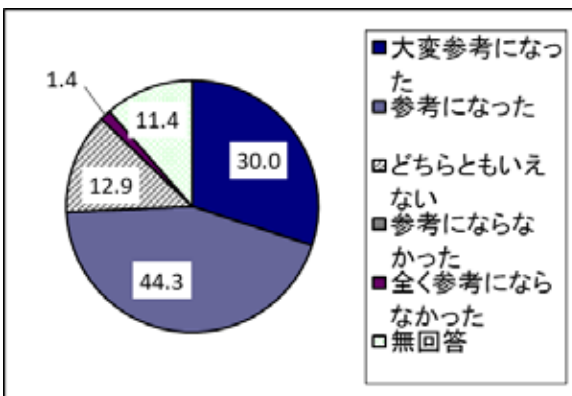


4. 活動年数

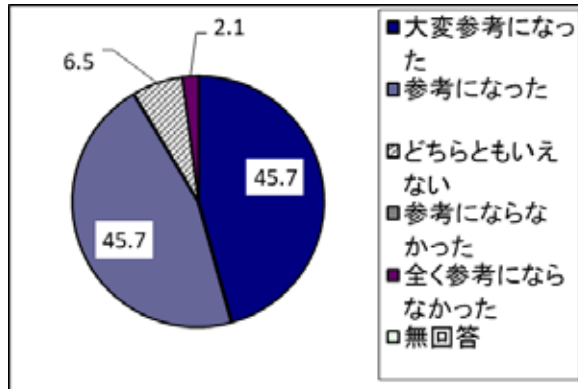


5. 評価

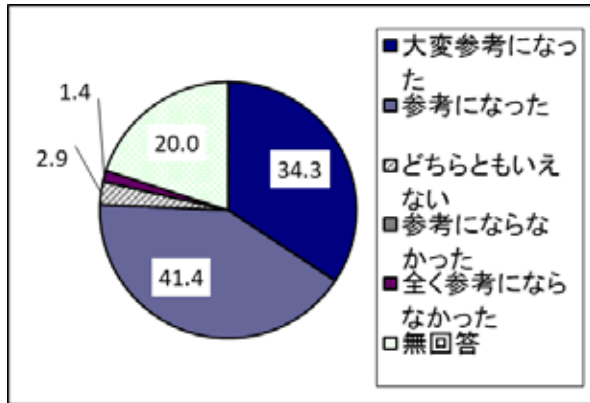
[講演 講師：溝端 光雄 先生]



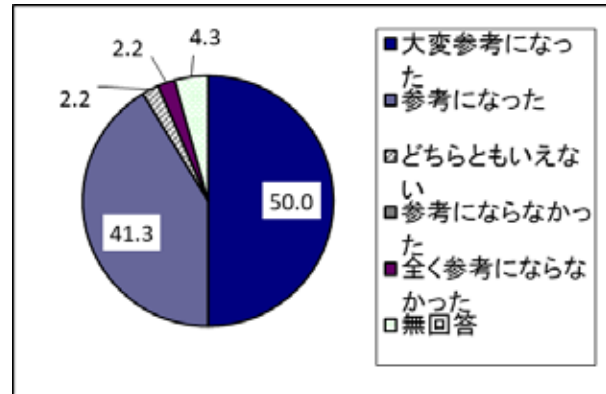
[講演 講師：星 忠通 先生]



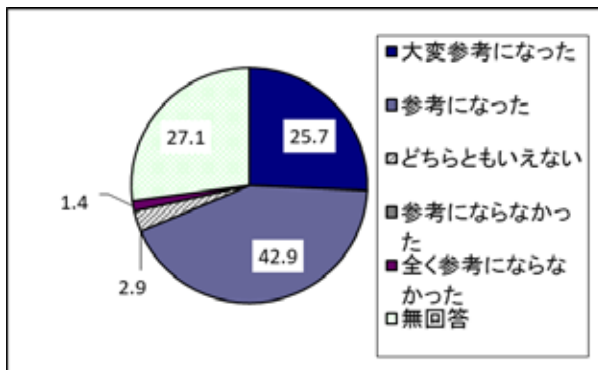
[活動事例発表]



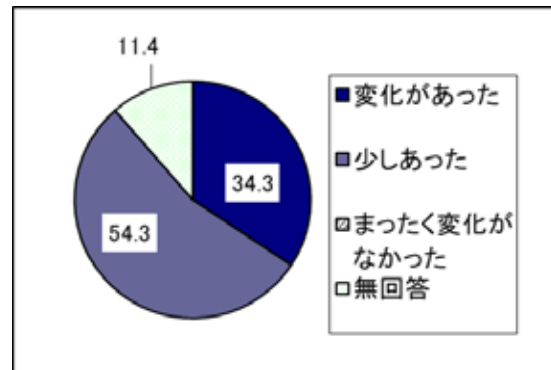
[グループ討議]



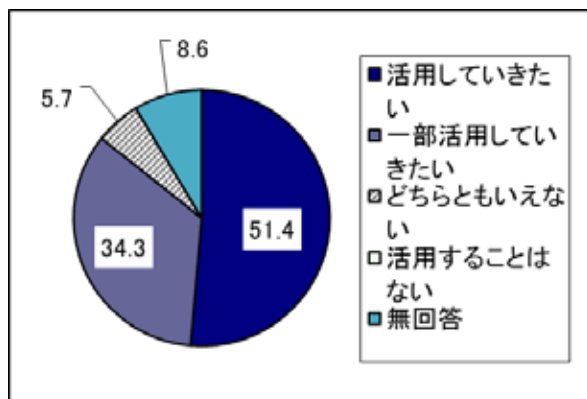
[総合評価] (講習会全体として)



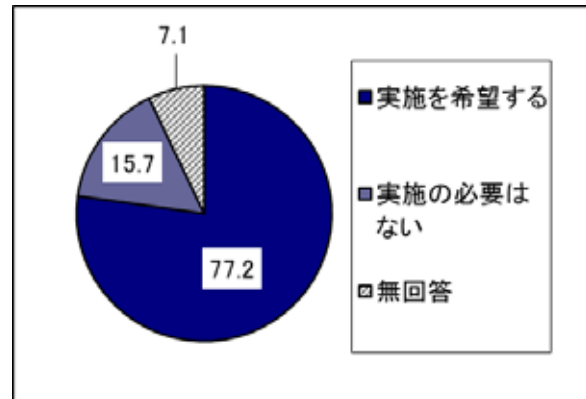
7. 講習会参加による意識の変化



8. 今回学んだ内容を今後の交通安全活動に活用するか



11. 来年度の開催について



6. 今回の内容以外で欲しいテーマや内容

- ・ 各地域における教室での指導法 (4)
- ・ 講習実施後の受講者の反応についての客観的な評価の方法 (3)
- ・ 小学生対象の交通安全教室の実例
- ・ 自転車教室の実施方法
- ・ 冬(雪)の交通安全活動
- ・ 幼児・小学生・高齢者向けの各教室で使える教材例
- ・ JAFのような企業で交通安全に力を入れている企業を教えてください
- ・ 飲酒運転根絶について
- ・ 教室での話し方
- ・ 効果的な教育内容や実施要領

9. 交通ボランティア活動に必要な知識や技術を向上させるのはどのような機会か

- ・ 各支部(地区)の交通安全教室を参考にしたい (3)
- ・ 体験・参加型の講習会 (2)
- ・ 道警の教育隊の話、指導案・教材などの資料配布を希望
- ・ 各地域の活動のコンクール風な機会があれば内容の向上になるのではないかと
- ・ 学校や地域での活動を増やす
- ・ 企業の参加が欲しい
- ・ 高齢者への指導はとても難しいので、指導方法や話し方に関する講習会があれば良い
- ・ 家庭等への伝え方、注意の仕方についての講習会

12. その他の意見・要望

- ・ 資料が見にくく、早口で残念だった (2)
- ・ 数年前の碓井真史先生の講演をもう一度聞きたい
- ・ 話し合いの時間がもっと欲しい
- ・ 講演は、一日にまとめた方がよい(円卓での講演は聞きづらい)
- ・ 懇親会などでの意見交換の場があるとよい
- ・ 幼児・学生向け冬の交通安全教材(DVDなど)が欲しい
- ・ 他市町村の活動事例等を聞くことができ大変良かった

4 . 記録写真



開会挨拶 内閣府 大橋参事官補佐



講演 溝端光雄先生



活動事例発表



活動事例発表



講演 星 忠通先生



グループ討議